



# LRQA独立保証証明書

## 東急株式会社および連結子会社の 2024 年度環境データに関する保証

この保証証明書は、契約に基づいて東急株式会社に対して作成されたものである。

### 保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA）は、東急株式会社（以下、会社）からの委嘱に基づき、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の会社のエネルギー使用量、GHG 排出量、取水量、排水量（以下、環境データ）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE 3000 (改訂版)及び温室効果ガス（GHG）については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外連結会社<sup>1</sup>における運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の指標に関する環境データの正確性及び信頼性の評価<sup>23</sup>
  - スコープ 1 GHG 排出量 (tCO<sub>2</sub>e)
  - スコープ 2 GHG 排出量 [マーケット基準] (tCO<sub>2</sub>e)
  - スコープ 3 GHG 排出量 (カテゴリー1<sup>4</sup>, 2, 3, 11, 13) (tCO<sub>2</sub>e)
  - エネルギー使用量<sup>5</sup>および再生可能エネルギー使用量 (MWh)
  - 取水量、排水量<sup>6</sup> (m<sup>3</sup>)

LRQA の保証業務は会社のサプライヤー、業務委託先、及び報告書で言及された第三者に関するデータ及び情報を除くものとする。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

### LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 別表 1 に要約される正確で信用できる環境データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。この保証証明書で表明された検証意見は、限定的保証水準<sup>7</sup>及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

<sup>1</sup> 会社と国内外連結会社 109 社に加え、川崎とどろきパーク、仙台国際空港株式会社を含み、東急ホテルズアジア PTE. LTD.、東急商業發展（香港）有限公司を含まない。

<sup>2</sup> スコープ 1 の対象となる排出活動は次の燃料の使用による CO<sub>2</sub> 排出量(都市ガス、LPG、LNG、ガソリン、軽油、灯油、A 重油)、次の CO<sub>2</sub> の直接排出(ドライアイスの使用、炭酸ガスの使用)、フロン漏洩、YANCHEP SUN CITY PTY., LTD における放牧された肉用牛、山羊の飼養と排せつ物管理に伴う N<sub>2</sub>O、CH<sub>4</sub> 排出量によるものとする。また、バイオディーゼルの使用に伴う排出を含まない。

<sup>3</sup> GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

<sup>4</sup> スコープ 3 カテゴリー 1 の集計範囲は東急株式会社、東急電鉄株式会社、株式会社東急ストア、株式会社東急百貨店、株式会社東急ホテルズ、東急ホテルズ&リゾーツ株式会社、株式会社東急グルメフロントとする。

<sup>5</sup> エネルギー使用量には水素の燃料としての使用を含まない。また、非化石エネルギー（黒液、木材、水素、アンモニア等の非化石燃料の他、非化石熱、非化石電気、合成メタン（e-メタン）、アルミ灰、アセチレン、木質チップ、バイオディーゼル等）を含まない。

<sup>6</sup> 取水量、排水量には自社で実測している地下水の使用、中水・再生水の使用を原則として含まない。取水量、または排水量は不明な場合には、請求書などから使用量が明らかなら同値を代入している。排水量には、その使用量が請求されている場合等明らかなら場合、結果として地下取水分等を含む場合がある。

<sup>7</sup> 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。



## 保証手続

LRQA の保証業務は、ISAE3000 (改訂版)と GHG については ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプリング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2024 年度の環境データに関する記録および情報の検証を行った。
- 本社、ホテル伊豆急、東急電鉄株式会社社長津田車両工場、東急病院を訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、敷地範囲において各種設備の現場確認を実施した。

## 観察事項

会社はその本体及びサイトにおけるデータマネジメント、及びデータ内部検証プロセスをより効果的にすることをとおして、データの完全性、正確性の継続的な改善努力が期待される。

## 基準、適格性及び独立性

LRQAはISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部：要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQA が会社に対して実施した業務はこの検証のみであり、それ自体が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

署名

2025 年 09 月 18 日

*Sho-taro Kawabata*

川端 将太郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F

LRQA reference: YKA00001065

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract. The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2025.



表 1. 東急株式会社および連結子会社の 2024 年度環境データの要約

対象項目	
スコープ 1 GHG 排出量	144,174 tCO <sub>2</sub> e
スコープ 2 GHG 排出量 [マーケット基準]	234,156 tCO <sub>2</sub> e
スコープ 3 GHG 排出量	-
カテゴリ1	746,168 tCO <sub>2</sub> e
カテゴリ2	480,457 tCO <sub>2</sub> e
カテゴリ3	216,228 tCO <sub>2</sub> e
カテゴリ11	54,172 tCO <sub>2</sub> e
カテゴリ13	124,436 tCO <sub>2</sub> e
エネルギー使用量	1,686,017 MWh
再生可能エネルギー使用量	512,254 MWh
取水量	7,340,057 m <sup>3</sup>
排水量	7,379,821 m <sup>3</sup>